

演題名	ハンドマッサージで会話はずむ笑顔		
施設名	石川島記念病院	(ふりがな) 発表者(職種)	くしだ やすよ 榎田 康代 (看護師)
(ふりがな) チーム名	スマイル・ハッピーチーム		
分類	③患者サービス・患者満足度の向上をめざすもの		
取り組み種別	施策実行型		
改善しようとした 問題課題	入院生活は、変化に乏しく刺激のない生活となりやすい傾向にあり、心豊かな入院生活を送っている環境にないのではないかと検討し、以下3点を課題とした。 1. デイルームに居るときの患者の状況は、TVをみているか、寝ていることが多く活動意欲がない 2. 病棟レクリエーションに対する職員の意識が低い 3. 看護職員と患者では、日常会話をしている意識のギャップがある		
改善の指標と その目標値	(指 標) short QOL-D(認知症高齢者の健康関連QOL)、DBD13(認知症行動障害尺度) フェイススケール (目標値) 日常会話が10分増加 フェイススケール5点以上を50%以上		
実施した対策	1. ハンドマッサージのやり方の研修 YouTube動画視聴 2. 一人10分間ハンドマッサージを実施する (15時～16時の間) 3. ハーブオイル(ラベンダーオイル)を使用 (アレルギー有無確認) 4. 実施時に日常会話をしながら行う 5. マッサージ開始前と実施1週間後に shortQOL-D,DBD13を測定,フェイススケール測定(実施中)		
改善指標の 対策実施 前後の変化	(実施前) short QOL-D 総合平均 26.6 DBD13 平均 11.75 (実施後) short QOL-D 総合平均 28.1 DBD13 平均 7.5 意図的関わり時間平均 44.3時間 フェイススケール5以上 83.3%		
歯止めと 標準化	標準化 ①正しいハンドマッサージについての手順と評価表を業務手順書に追加する 教育 ①ハンドマッサージ方法を新入職者に対して、YouTubeの視聴と指導を実施する 管理 ①ハンドマッサージの実施が安全な方法で実施しているか定期的に評価と観察をする		
活動の種類 ※複数選択可	①職場単位の活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 榎田 康代 看護師 2 弓田 純子 看護師 3 関 明香 介護福祉士 4 中村 知子 介護福祉士 5 山田 奈実 ケアワーカー 6 今津 三恵子 ケアワーカー 7 志村 桂子 クラーク 8 丸山 恭子 看護師
活動の場 ※複数選択可	①診療部門 ④その他		
活動期間	2024年2月 ～ 6月		
リーダー名 (職種)	榎田 康代 (看護師)		
活動回数	50		回



# ハンドマッサージで 会話は必ず笑顔



石川島記念病院  
 チーム名：スマイル・ハッピーチーム  
 発表者 榎田 康代  
 メンバー：中村 知子 関 明香 志村 桂子  
 今津 三恵子 山田 奈実 弓田 純子  
 丸山 恭子

## テーマ選定と背景

- 国連機関が発表した「世界幸福度報告書」によれば、2024年の日本の幸福度ランキングは51位であり低い傾向
- 当院の理念に「地域の皆さまの心豊かな人生を支援します」とあり、心豊かな人生とは何かを検討
- 入院生活は、変化に乏しく刺激のない生活となりやすい傾向にあり、心豊かな生活と言える環境にないのではないか
- 「豊かな人生」とは、日常生活に満足し、人間としての尊厳が守られ心身ともに快適な状態
- 病棟職員は日常業務や記録などの時間に追われ、患者と十分なコミュニケーションを図るのが難しい環境
- そこで、マッサージは心地よさとともに、マッサージすることでゆっくり患者さんに向き合い、日常会話をする事で心豊かな人生を後押しをすることを考え、ハンドマッサージを取り入れていくことにした

## 活動計画表

手順	担当	2月	3月	4月	5月	6月
1 テーマ選定	全員	→				
2 現状把握	全員		→			
3 目標の設定	全員			→		
4 対策の検討と実施	中村 関 山田 今津			→		
5 対策の確認	榎田 弓田			→		
6 標準化と管理の定着	榎田 弓田 関			→		
7 報告書作成	榎田 弓田 丸山			→		

## 現状把握 患者の1日スケジュール

- ディルームに居る時間：9時～17時（リハビリのない時間帯）
- 患者の1日



## 現状把握

毎日することがなく、退屈。TVでもみているか

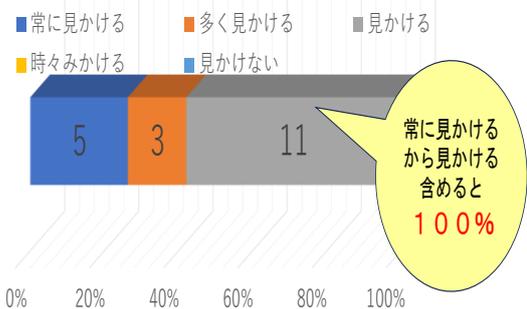
ディルームでの患者の状況

リハビリ終わったし、何もやることがないので寝よう！



## 現状把握 【看護職の意識調査】

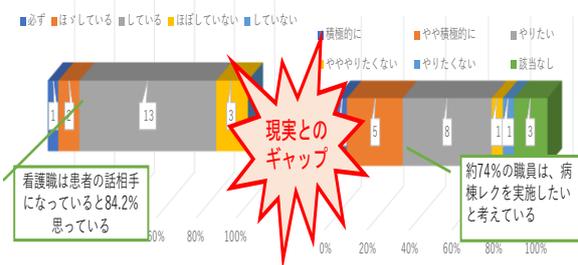
ディルームでの患者状況



## 現状把握 【看護職の意識調査】

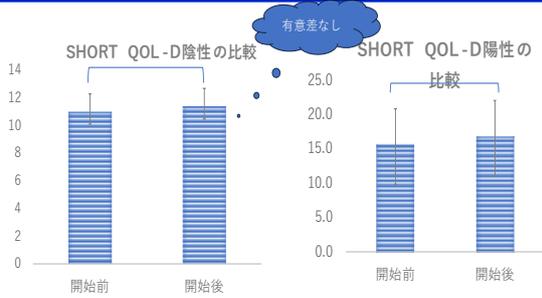
話し相手の実施意識

病棟レクの意識

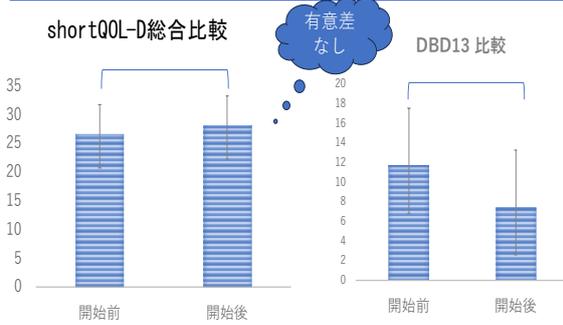




## 効果の確認



## 効果の確認



## 対策と実施



## 標準化と管理の定着

何を(項目)	なぜ(目的)	誰が(担当)	いつ(期間)	どこで(場所)	どのように(方法)	
標準化	正しいハンドマッサージのやり方を	正しい方法で誰もが実施できるように	CWリーダー	適宜	院内	手順と評価表を業務手順書に追加する
教育	ハンドマッサージを	正しい方法を習得するために	教育チーム	2回/年	院内	新入職者に対しYOU TUBE視聴し実践を一緒に実施する
管理	正しいハンドマッサージの実施状況を	患者が不快な思いをしていないか確認するため	師長	1回/月	部署	フェイススケールと患者の意見の確認し、実施者へフィードバックする

## 反省と今後の課題

ステップ	良かった点	悪かった点	今後の課題
テーマ選定	ディルムにある患者の日々の過ごし方に焦点をあてられた	——	今後も継続して活動していく
現状把握 目標設定	多方面からデータ分析ができた	データ収集に時間を要した	データの目的を明確にし目標設定していく
活動計画	役割分担し全員で取り組むことができた	対策作成に時間を要した	人員の少ない時に継続して活動できる工夫
要因解析	色々な意見を出し合うことができた	データを多角的な視点で分析できれば良かった	データを多角的に分析できるようにする
対策の立案と実施	マッサージするそのものの効果と会話にはずみももてた	勤務者数が少ない時は、実施できなかった	実施状況と患者の状況把握
効果の確認	患者の喜ぶ表情を確認できた	客観的な評価での結果がわからなかった	感情などの内面を評価できる尺度の探索
標準化と管理の定着	日々の業務の中に取り込む意識付けができた	ハンドマッサージを実施するのは、CWが殆どであった	ハンドマッサージを職員全体で実施する

## おわりに

誰もが幸せになることを願い日々過ごしている今回、ハンドマッサージを取り入れ、患者の笑顔が増え、日常会話が増加することを目的に活動を行った患者に対する「愛情もって親身な対応」のマインドが根付き、当りまえに実践し患者さんのハッピーマイルあふれる日常になるよう更なる活動を行っていきたい